

社会とのコミュニケーション

お客様、社員、お取引先、株主・投資家、国際社会・地域社会など、多様なステークホルダーの皆様とのコミュニケーションに努めています。

有識者との対話「環境ダイアログ」

地球環境課題の解決に向けて、幅広いステークホルダーとの協創関係を築き、社会の変化やニーズを反映した環境経営を推進していくためには、社会と対話する機会を数多く持つことが重要と考えています。

富士通グループでは、2011年度から環境ダイアログを開始し、2013年度末までに計14回開催。NPO、大学、企業、ジャーナリストなど様々な分野から30名以上の有識者の方々をお招きし、毎回設定されたテーマについて対話を重ねています。このダイアログから富士通に対する期待や要請を理解するとともに、環境経営の改善や強化につなげています。



2013年度のテーマ

【第1回】富士通のマテリアリティを考える

【第2回】富士通の製品における資源への取り組み

【第3回】都市と企業の事業所(工場など)とのコラボを考える

【第4回】地域(里地里山)が持続的に発展していくための新たな仕組みについて

【第5回】環境経営を強化するガバナンスのありかた

【第6回】地球温暖化適応策

資源の取り組みについて、評価手法や対応策を議論

富士通グループは、製品開発に欠かせない資源の使用と廃棄に関わる環境への影響度合いを測るため、新たに「資源効率」指標を策定しました(P20参照)。この指標の考え方、リサイクルに対する評価方法などについて、研究者や専門家の方々と活発な意見交換を行いました。

「指標化には多くの企業が悩んでいるが、思い切って先行してほしい」「富士通の製品の中で、資源という視点で環境インパクトが大きいものは何かを考え、それを評価できる指標としなければならない」、「サプライチェーンの中で、評価すべき主体に対して情報を開示することが必要であり、リスクが発生する製造・使用段階での情報管理にはICTを活用できるはず」といったご意見がありました。

これらを参考にしながら、内容の改善や今後の活動の方向性を検討し、資源効率を高めていくと共に、ICTを活用して社会全体の資源の有効利用に貢献していきます。

地域との協働に関する意見交換により、新規プロジェクトを創出

企業の社会貢献活動として代表的な林や里山保全活動の課題や、今後のあり方について意見交換を行いました。

「『森さえ良くなれば』とスタンドアロンで森づくりを捉えるのではなく、生態系全体や周辺地域の活性化までも視野に入れて活動を捉えることが重要」「森作りは時間がかかるので、植林して終わりではなく、メンテナンスまで含めて最後までどうするかを考えないと真の信頼関係は生まれない」とのご指摘や、「ボランティアにとどまらずビジネスモデルの中に富士通が入り込み、里山経済が回っていくようになれば一層良い」などのご意見を頂きました。

これらのご意見を踏まえ、長期的な関係構築と地域への貢献を目指した森林再生活動を岩手県宮古市で開始しています(P25参照)。

Top Message

環境本部長インタビュー

特集 The Power of ICT

第7期富士通グループ
環境行動計画

Chapter I 社会への貢献

Chapter II 自らの事業活動

環境マネジメント

データ編

環境経営

グリーン調達

環境リスク最小化に向けた取り組み

社員への環境教育・啓発活動

社会とのコミュニケーション

ファシリテーターの声

毎回ファシリテーターとして参加していますが、環境問題をはじめとして、1つの企業だけでは解決が難しい問題が増えている現在、企業にも社会と共に問題を解決する姿勢が必須であり、その具体的な取り組みとしてダイアログは非常に重要だと考えています。CSRレポート用など単発でのダイアログはよくありますが、富士通は、継続して多面的に社会とのダイアログを行っている企業として、高く評価しています。

ダイアログを通して、有識者が技術面など富士通への期待を寄せていることを感じましたし、この場を通じて現在の課題を社外と共に考えていこうという姿勢に、信頼を深めた様子も感じられました。有識者にとっても、企業の課題を共有してもらうことで、自分たちの理解や取り組みをさらに向上・強化できるなど有益ですし、ダイアログの場やネットワークから次の活動につながった例もいくつも出てきています。

今後も環境ダイアログを続けることで、独りよがりにならない

環境活動、環境経営を先進的に進めていってくれることを期待しています。



幸せ経済社会研究所 所長
枝廣 淳子 氏

展示会・イベントを通じた コミュニケーション

富士通グループは国内外の展示会やイベントを通じて、お客様や地域住民の皆様に対し、地球環境課題の解決に向けた富士通グループの取り組みに関する情報を紹介しています。

2013年度に出展した主な展示会・イベント

- ITU Green Standard Week / スペイン・マドリード市 / 2013年9月
- 川崎国際環境技術展 / 神奈川 / 2014年2月
- エコプロダクツ2013 / 東京 / 2013年12月
- CEATEC / 千葉 / 2013年10月
- エコプロダクツ国際展2014 / 台湾・台北市 / 2014年3月



エコプロダクツ2013(環境授業)の様子

持続可能な社会やグリーンICTの普及拡大に 向けた外部団体との連携

富士通グループは、国内外の外部団体に積極的に参加することで、持続可能な社会の実現に向けたグリーンICTの普及や活用の推進に取り組んでいます。

主な参画組織

ISO TC286 SC1 (Smart Urban Infrastructure Metrics):

スマートコミュニティにおけるインフラ評価方法構築やICT役割明確化を推進

WBCSD(持続可能な発展のための世界経済人会議):

交通・運輸領域の評価指標の検討や各種ソリューションの具現化を推進

ITU-Tの「ICTと気候変動グループ(SG5 WP3)」:

グリーンICTの普及拡大

「GHGプロトコル製品ライフサイクルの算定および報告基準(ICTセクターガイダンス)」の運営委員会:

ICTライフサイクルの環境影響を評価

The Green Grid:

ICT機器の資源効率向上やデータセンターの指標などの定義検討

JEITAグリーンIT委員会:

製品・サービスの貢献量評価手法の確立に貢献

データセンターの評価指標に関する日米欧の国際協議会議:

データセンターの環境配慮の促進

Uptime Institute Network:

データセンターのパフォーマンスや効率性の向上に向けた調査や会議への参加